

6. やさしい育成技術

ブレーキング

曳き馬とロンジング

軽種馬育成調教センター 技術普及課 教育係 齋藤 昭浩

教官

ケン



前号で行ったように「躰」を常に念頭に置くことで、人間に対して非常に従順な態度を示し、物事に動じなくなってきたパルル号。今回からのステージではどのように変化していくのかな？「人馬安全」を基本に進めていきましょう。



曳き馬

教官：ケン君、曳き馬での事故は非常に多いのです！

馴致に限らず放牧や集牧時にも注意して実施していきましょう。

また、必ずチフニー・リードチェーンを使用するとともに、人間の要求に対する確に馬が行動を示すように実施することを忘れないでください。くれぐれも安全第一ですよ！

前進

舌鼓・声と共に人がリードするよう先に歩き、馬が歩き出したら直ちに馬の肩の位置に移動します。馬が動かない場合は、左手の余った綱を軽く馬の腹に当てることで、鞭の役割とすることができます。この場合、人は後ろを見ることなく馬体を真直ぐに保ちながら実施しましょう。

若馬は、元気良く真直ぐ歩くことを理解していないため、最初は補助者を付けて馬の後ろから前進するよう追ってもらったり、リードホース的な馬を先に歩かせることで容易に前進の合図を覚えます。

停止

穏やかな口調で馬に声をかけ、同時に曳き手を馬の胸前の方向に引き真直ぐ止めます。馬が先に行ってしまう場合も同じ方法で、これを数回短く繰り返すことで、馬は停止することなく落ち着いて歩けるようになります。馬が突進していく場合は、決して曳き手を伸ばしてはなりません。伸ばした瞬間に蹴られます。これは、よくある事故です。常に馬の肩に位置することを忘れないで下さい。

回転

基本的には、右回り(時計回り)で実施します。安全に制御しやすく、展示や検査の場合には馬を見る人にとって曳く人が邪魔にならずに馬全体を見るのが可能になるからです。

馬が悪ふざけをする場合

叱る声と同時に右手を1~2回短く強く馬の胸前の方向に動かし衝撃を与え、人間に対して、勝手な行動は許されないということを認識させなくてはなりません。チフニーを使用している場合は、曳き手を下方に強く使うと口の中が切れてしまうため決して下方へ使用してはなりません。また、少しうるさい馬の場合、馬は何もしていないのに常に馬を「シヤクル」人もいますが、かえって人と馬との信頼関係を損なうこととなります。

教官：それでは、以上の注意点をしっかり守り曳き馬を試みましょう。

ケン：よし！安全第一でしっかり歩くぞ！

GO ON パルル！

教官：非常に安全な曳き馬ですが、歩くスピードが遅いですね。およそ、時速6.6kmの速さで歩くと、馬は全身を上手に使って歩きます。時速6.6kmというスピードは、人間の歩く速さの目安で言うと、「早歩き」という感じです。頑張ってください。強くて速い競走馬を育成するためには、必要不可欠なことです。

ケン：これは、結構疲れることですね！でも、パルルが少しでも強い競走馬になるためだったら、全く問題ナッシングです。

教官：ケン君、ナ、ナッシングって・・・。

それはともかく、最近ではウォーキングマシーン

の活用でどの馬もたくさん歩いていることと
思います。

ケン：教官！パルルにもマシーンを使って運動させ
てみてはいかがですか？

教官：たしかに、マシンの効果は絶大です。しか
し、人と馬との信頼関係をマシーンでは作れませ
ん。大変ですがパルルのために頑張りましょう。

ケン：はい！教官、頑張ります。

まとめ

馬の移動の際は、チフニー・リードチェーン
を必ず使用すること。
人の位置は馬の肩に位置すること。
回転は右回りで行うこと。
人と馬との信頼関係を損なう行動は、しない
こと。
馬が全身を使って歩くよう、スピードに気を
付けること。

最終的には、前進・停止・回転と人間の指示に従い、
正しい曳き馬を行うことにより人と馬の信頼関係、
馬の調教に必要な「力と沈静」を作り上げることが
出来ます。

BTCニュース47号にも「馬の曳き方について」を
掲載しています。そちらも参照下さい。

ロンジング

教官：ロンジングとは、調馬策運動のことです。こ
の運動を行うには、いくつかの理由があります。

口あるいは背中に痛みがあって、騎乗するこ
とが出来ない。

馬が長期間、休んでいた場合は騎乗する前にこ
の運動を行うこともある。

調教あるいは再調教のため、馬の行動を改善す
る必要が生じた場合。

騎乗馴致（若馬のブレーキング）の一環

ケン：それではパルルの場合、の騎乗馴致のため
にロンジングを行うのですね。

教官：その通りです。まず、以下の馬具を使用しま
すので実施者は必ず自分で使用する馬具の確認を行

ってください。人任せはいけませんよ！人馬安全の
ためです。

- ・調馬策（ロングレーン）
- ・追い鞭
- ・馬の肢に着けるプロテクター
- ・オーバーリーチブーツ（ワンコ）

教官：それでは、実際にロンジングを実施する前に、
実施者は調馬策との摩擦によって火傷をしないよう、
手袋を着用しましょう。また、保護帽（ヘルメット）
の着用を忘れないでください。

ケン：準備完了です！馬具の確認も行いました。

教官：それでは実施しましょう。



ロンジングの手順

教官：それでは、パルルを円馬場に連れて行き、そ
の外周を2・3周曳いて、この場所に慣れさせま
しょう。慣れてきたら、馬を馬場の中央で駐立させ
ロンジングの開始です。ロンジングをスタートさせる
時が一番危険ですので、馬を離すと同時にケン君も
馬から離れるようにして下さい。

ケン：はい！わかりました。



2人1組でロンジングを行います。馬を追う補助者は斜め45°後方に位置します。

教官：円馬場の外周を確実に回れるよう、馬を常に推進することが大切です。

速歩で出来れば一番良いですが、確実に外周を運動できることが大切ですので駈歩になってもかまいません。

ケン：左回りがうまく出来たので、次は右回りですね。

教官：そうです。オーバーワークにならないように馬によって運動時間を考慮しなければなりません。例えば、体つきが小さい馬や牝馬は疲れやすいため運動時間をなるべく短縮することが重要です。

ケン：どのくらいの時間が良いのでしょうか？

教官：あくまでも、目安ですが10分以内でロンジングを終えることが望ましいです。

ケン：両手前のロンジングがうまくいきました！でも、パルルはあまり前に進む意欲が無いように思えます。

教官：今日、初めて行ったことですから問題はありません。明日は確実に人間の指示通り機敏に動きますよ。

ケン：明日が非常に楽しみです！

教官：そうですね。いつもその気持ちを忘れないでください！パルルも楽しい訓練を望んでいますよ。

まとめ

最終的に、馬は実施者の指示に従い運動を行うことです。その際は、馬が静かに、かつ積極的に前に進むよう推進しなければなりません。また、片方の手前だけ実施するのではなく、両方の手前を実施し、馬の両側の筋肉を均等に発達させることに役立てれば良いのです。

馬具の紹介



追い鞭



調馬策（ロングレーン）

調馬策はドライビングでも同じ物を使用するので、重みのあるタイプや幅の太いタイプを選択しています。



プロテクターとオーバーリーチブーツ
プロテクターは臑を保護するために使用します。
オーバーリーチとは後肢の蹄が前肢の蹄球等へ追突することで、オーバーリーチブーツ(ワンコ)は追突等によるケガを防止するために使用します。



3点式カップラン
3点式カップランは左右のハミ環と鼻革に固定します。鼻革に固定することで調馬策を引っ張った時にもハミが過度に動かないようになります。



馴致用の頭絡



馴致用の頭絡を装着した状態
初めて馬に頭絡を掛ける時は、馬の頭を上げさせないように、片手で馬の鼻面を保持するとともに、少しゆる目の状態で装着し、その後、適正な長さにします。

